



特定非営利活動法人



<http://nepal-mika.jp>

平成29年 春号 NO.58

ネパール・ミカの会

平成29年4月20日発行 194-0035 東京都町田市忠生2-5-36 tel042-791-0602



「新年度を迎え」

NPO法人ネパール・ミカの会 理事長 齋藤 謹也

平成29年度に入ります。いよいよ21年目となりますが、御陰さまで持続してのボランティアの会としては古い方に属するようになりました。やむをえない事ですが、高齢化の波は当会にも押し寄せ、どのように、今後展開して行くのか、理事会でも話題となっています。皆様のお知恵をお貸しください。

又、日本国内とは違いネパール国内の事情も大きく20年前とは変化して来ました。物価も高くなり、日本に来るネパール人も多くなると共に、海外に出る人が多くなりました。大地震もあり、社会状況の変化にどう対応しながら、ネパールの人々と共に手をたずさえていくのか検討課題が山積しています。

ヒマラヤの山々の神々しい姿に魅せられつつ、尚、縁の深さを喜びとして前進したいと願っています。次代の育成を図る事が急務と考えています。一緒に頑張ってみましょう。

「第19次教育支援の旅に参加して」

副理事長 今村 旭

2月28日の深夜、羽田空港国際線ロビーにメンバーが集まりました。ゴビンダさん指示でスムーズに機上の人となり6時間後には、炎暑のバンコクです。衣類を脱いだり着たりと細かな調節で、体調管理に注意が必要です。旅は“夏のバンコク”市内観光から始まりました。水上マーケットがおもしろい。自動車用エンジンの再利用の「バリバリっ！」というすごい音のモーターボートで走りまわります。水路を曲芸のように走行、なかなかスピード感がありおもしろい。爽快感もある。終点では、南国のフルーツがたくさん売られていて、念願のドリアンも食べた。その後、市内のワットポー寺院などを見学。短時間でタイを楽しみました。

3月2日、早朝便でブータンのパロへ。今度は涼しいパロ空港。ブータンの印象は、一種、独特の市街の家並みで平和な印象が目を見せます。ブータンでは、パロとティンブー、2泊の予定だ。2日間の日程で、ブータンの有名寺院や市民の観察ができた。現地ガイドのキンレイさんがなかなかの男前で気配りや行動が心地よい。聞けば、ゴビンダさんの友人ということでした。

ずいぶん前に町田市から消防車を寄贈されており、車庫にズラリと日本からの消防車が並んでいた。全車のフロントには日の丸が描かれ、町田からの車は、今は、地方で活躍中とのこと。署長さんから感謝の言葉があり少々誇らしい気分となる。当時から、関係した加藤さんも、現役の車を前に、日の丸マークにいささか感動していた。ブータン2都市のみの短い滞在でしたが、例の日本の着物風の民族衣装の人々を見ることができました。ティンブーは標高2300m、パロは2280mといずれも高地で急な動作をすると、少し息苦しい感じでした。さて、パロ空港に別れを告げ、いよいよネパール・カトマンズへ。スリザナさんの出迎えを受け、国内線でバイラワへ移動です。

夕日が沈む頃、ルンビニの笠井ホテルに到着。3月5日より、ルンビニ地区の学校訪問と支援品を配布です。3月5日、6日は、両日、学校訪問で忙しく過ごしました。6日には、12校の校長や代表者が集まってくれて、笠井ホテルで、創立20周年の記念式典と昼食会を行いました。普段、学校関係者はあまり横の交流がないらしく、お互いと会話をせず、黙々と食べるのに旺盛で、静かな懇親会でした。

3月7日はタンセン移動で、バンダを避け、プトワル経由で、タンセンの山道を駆け上った。目的のスリナガルホテルはリフォームがされ、前より少しきれいな部屋になりました。

モホン女子校を訪問し、ノート類を配布し、職員室で、校長らと面談し、コンピューター導入の希望が述べられました。夜は、ナグロレストランで、7校11名の校長や教師が集まり、記念の懇親会を行いました。タンセンの先生方はウイスキーが大好物で、おおいに、盛りあがりしました。

3月8日はカトマンズに戻り、午前中、市内を散策しました。3月9日はカトマンズ市内で、最初にパドマカニヤ女子校を訪問。雪山童子の会のプレゼントのパーカーを渡し、狛江第一小学校の交流品を贈呈し、学校側と懇談しました。カトマンズ滞りも少なくなり、バザー用品の買い入れなど、忙しく行動しました。最終日の前日、特別コースとして、ラマ氏の自宅を訪問しました。一家の家長役を担っているラマ氏の家らしく、とてもすばらしい環境でした。ドマ夫人も元気に我々を迎えてくれました。3月10日は昼に空港へ。バンダの支障もなく、スムーズに帰国の途に就きました。旅の終盤に体調不良をきたした一部の人でしたが、全員無事に帰国でき、ひとまず、成功の内に旅を終えることができました。10+2の消滅や、SLCの変革等があり、今後の展望が見通し辛くなった点など、これからの課題も出てくるかなと感じた旅でした。

「旅の所感」

西澤 忠

今回の旅におけるネパールでの教育環境整備活動については、「第19次教育支援の旅 報告書」をご覧くださいと思います。

さて、ネパールは何か少しずつ新しい風が、そよそよと吹いているような気がした旅でした。

第一にインフラ面では、停電時間は大幅に減少し、仮に停電になっても、ホテルではすぐに自家発電に切り替わり、滞在中全く不便を感じませんでした。また水道工事が行われていること、携帯電話の普及が著しく、併せてWi-Fi等通信インフラの整備も進み、使用可能地域も増えていることなどです。

第二に教育関連では、新教育制度が始まり、学校ではHigh School対応の教室・実習室の設置や実習設備などが必要となっています。加えて特に専門科目の教師の確保は容易ではないとの事でした。学校側ではボランティアに期待もしていますが、ある学校ではすでに校舎を増築しているなど、関係者の努力も伺い知ることが出来ました。また教育内容では専門科目や実習で使用するパソコンの導入や、情報化の進展に伴いネットワーク化を進めようとしている学校もありました。

更にネパールでも子供の減少傾向があるそうで、幼児教育を本格的に導入する学校もあり、見学させていただきました。

タンセンでの先生方との懇親会で、ある学長が話された「物の支援も有り難いが、こうして顔を合わせる事が何より嬉しい」との言葉もありました。

ほんの短時間で感じた新しい風ですが、私たちもこの風の風速・風向を十分理解し、活動を変える必要があるものは、その努力が必要と感じた旅でもありました。

今回も子供たちの輝く瞳に出会えて幸せでした。ありがとう！ダンネバード！

「第19次教育支援の旅 あれこれ」

中野 千恵子

2月28日 22時25分に羽田空港出発ロビーに集合だ。町田組はリムジンバスの都合で早めに着く予定です。私は予定より早めに相模原駅で同行の相手を待つ。相手の吉田さんが姪御さんとエレベーターでホームに来た。荷物のスーツケースが重いので付いてきてくれたのだ。確かに23KG位ありそうでとても重い。私を含め、皆かなり重いはずなのだ。

ネパールのプレゼントがあり、途中でブータンに2泊3日で観光に行くので荷物も余分にあるはずなのだ。新横浜に着いてからもエレベーターを探しながら羽田空港行きのバス停についた。

無事に羽田空港国際ターミナル着。町田組は夕食中。今回の旅は8人と添乗員のゴビンダさんだ。それも私を含めほとんどが高齢者なのだ。ゴビンダさんに迷惑がかからないように何事もなく旅行が終わる事が一番。しかし、バンコクの空港でブータン行きの飛行機に乗る際に判ったことだが、私のビザの申請の時のパスポート番号が一字足りないことが判明。エエーツ。

去年の旅でもスリランカで私の荷物が出てこなく皆さんに迷惑をかけたのに・・・何とか、ゴビンダさんのお蔭で飛行機にも乗れ一安心。しかし、ブータンに入る際もひやひや。ゴビンダさんもウロウロ。やっとブータン入国OK。冷や汗タラタラ。

空港のあるパロからティンブー迄は一時間半のバス旅だが、私は車酔いしてしまい、昼食は見学。皆は美味しくそれに食べていた。時間が解決であとは大丈夫になり安心しました。

ネパールに着いてからは風邪をひいた人、お腹を壊した人等が出てきた。食事の時に食べないのですぐ解る。何とかルンビニの行事も終わり、タンセンに向かうが、バイラワで銃撃戦があったので、運転手が嫌がっているの違う道で行くことにした。道が良ければ林の中を走るので気持ちがいいはずなのに。酷い凸凹道。やっと、プトワルに着き昼食。名前は変わっていたがいつもの料理が出てきた。一時間位でタンセンに到着。モホン女子校を訪問。髪留めゴムを渡したりした。その後タンセン織の品物を買って、シリナガルホテルにチェックイン。

私と吉田さんは皆と違う場所だったが、皆さんの部屋も良くなっていったようだ。寝具も冷たくなくトイレ状態もまあまあの感じ。良かったです。夕食は学校の校長先生を招待しました。和やかに終了した。翌日はJVT校とミレニウム校を訪問。本来、学校は国際婦人デーで休みなのだが、二つの学校は授業をしていました。その後、バイラワに向けバスが走ります。

バイラワ近くまで行ったときにストで道が動かなくなりストップ。又、抜け道を走り、どうにか空港に着きました。カトマンズに向かう途中で夕日が見えると思っていたのですが、残念です。翌日はパドマカニア女子校を訪問。ジャージー40着、消しゴム、髪留め、ノートをプレゼント。その後はラマさんの素晴らしい自宅でドマさんの手作り料理を頂きました。そして、買い物をしてネパールの仕事を終了です。身体を壊した方も何とか戻ってきたようでした。無事にカトマンズを後にして旅行は終わりました。皆様お疲れ様でした。



「ネパールへ 11日間の旅」

濱崎 ヤス江

周りの友人達に「また行くの？だいじょうぶ？」と心配され、私自身も体調に不安を抱えての出発でした。今年はタイ・ブータン・ネパールと3ヶ国の支援の旅です。

タイには乗り継ぎの都合で1日の滞在でした。日中は36度近い暑さでした。水上マーケットではドリアン、マンゴーなど南国の味を楽しみました。

翌日の早朝ブータンへ。幸福度世界一と云われるブータンは私が憧れていた国です。九州ほどの国土に70万人の人々が暮らす山岳地の仏教王国であること。僧院を始め伝統様式の建物、独自の民族衣装などなど。目新しい景観に魅せられました。好天に恵まれ澄んだ青空、美しい川、柳の芽吹き、糸柳の大木は今も目に焼き付いています。ブータンは本当にいいところでした。

4日目旅の目的地ネパール・ルンビニに入りました。ルンビニでは笠井ホテルに3連泊、贅沢をさせて頂きました。

訪問校は5校、登校日だったので、ほとんどの生徒たちにノート等のプレゼントを手渡しする事が出来て、お互い喜びを分かちました。テロ事件が発生、安全の為に予定を変更してタンセンに向かいました。

定宿のシリナガルホテルは改装され、ふとんも暖かく、よく眠る事が出来ました。タンセンはのんびりムードで坂道を散策しながら、学校を巡り、夜は恒例の先生方との懇親会。和やかな雰囲気の良い時間を過ごしました。

旅の終盤、カトマンズではうれしいことがありました。ラマさんが自宅に招いてくれ、昼食をご馳走になった事です。ドマさんの手料理のおいしかった事。日本の懐石料理ながらでした。

カトマンズは訪れる度に、車もバイクも増え。ホテル・バイシャリ周辺の路地はまともに歩けないほどの混雑ぶりです。携帯電話は誰も持っていますし、教育制度も変わっているそうです。

支援の旅と言っても私は皆さんの後をただついてまわっているだけの参加です。お世話を頂いた皆さんに感謝、楽しい旅をありがとうございました。元気をもらって無事に帰って来ました。



「タイ～ブータンそしてネパールへ」

松浦 陽子

3月1日早朝、タイのバンコクに到着。現地ガイドのチャーリーさんの出迎えを受け宿泊予定のホテルに荷物を預けて、少し休憩してから観光バスで水上マーケットに向かう。

私はこれまでタイには2回ほど来ており、今回で3度目の観光です。前回来てからもう10年以上も経つでしょうか、、、。久しぶりに訪れた水上マーケットは随分変わっていて驚きました。昔は大きな川に水上マーケットがあった筈なのに、今はいくつもの水路に枝分かれしていて、しかも船は手漕ぎではなくモーターで動かすので、狭い水路を結構なスピードで進み、ぶつからないかと少し怖い位でした。朝はそれ程暑さを感じませんでしたが、だんだん気温が上がって来て、昼頃には36度位になり、まさに真夏の暑さになりました。

暑い国はやはりフルーツ王国です。去年スリランカで食べ損なったドリアンを、船で売りに来ている、きれいなお姉さんに食べ頃なのを選んで切り分けてもらい、皆で分け合って食べました。とても美味でした。又、マンゴスチンも美味しくいくつも食べました。午後、ワットポー（涅槃寺院）など行きましたが、大きなお釈迦様の黄金の寝姿はとても素晴らしかったです。

次の日の早朝、あこがれの不思議の国ブータンへ向かいました。近づいて来るブータンを飛行機の中から眺めていて、「つくづく、山また山に囲まれた国だなあ」と思いながら、パロ国際空港に到着。本当に山あいの小さな空港でした。こんな山に囲まれた場所なので、午前中はいつも強い風が吹くのだそうです。パイロットは熟練した技術がないと無理だと思いました。

ブータンに2泊して首都ティンブーとパロだけの観光でしたが仏教国であるので当然のことですが、観光はほとんどお寺か又はお寺と役所が一緒になっているゾンと呼ばれる施設がほとんどでした。特にパロでは、朝夕にお寺からお経やブオーと吹き鳴らす長い角笛の音が聞えて来て、目の前に広がるのどかな美しい田園風景と共に、とても心地よく、癒される貴重な時間でした。

食べ物も素朴で、そば粉で作った餃子やそば焼きそば、そして野菜料理等、美味しかったです。建物もきれいに彩色されていて、独特な建て方で、まとまりがあり素敵でした。今、観光客は10万人位だそうですが、これ以上増やさない方が、皆が幸せでいられるぎりぎりの線かなと思います。今のブータンの人々は、皆、のんびりと穏やかで、ゆったりとした時間の中で生活していましたもの。

そして4日に、いよいよ第19次ネパール教育支援旅行に入りました。夕方、ルンビニ笠井ホテルに到着。移動が多い旅なので、唯一、同じホテルに3泊出来るルンビニは心身共にゆっくりとくつろげる場所でもあります。

今度の支援旅行の主な目的の一つは、ミカの会の20周年記念イベントとして、「ルンビニ地区の学校の先生方をホテルに招いて、懇談会を開くこと」なので、12校の先生方とホテルで記念式典を行い、絵本や折り紙、鉛筆、テニスボール等の記念品を各校に差し上げました。その後レストランに移って、昼食を共にしながら懇談をしましたが、ここルンビニの先生方は、まだまだ、ホテルなどでの食事には慣れない様子で、言葉などの問題もあります。皆、黙々と食べていたのが印象的でした。

もう一つの目的である「10+2がどうなっているか？」と云うことですが、今回ルンビニ地区の学校を5校訪問して、つい最近学制が変わり、10+2が廃止されて新制度がスタート。1～8年生迄はBasic 9～12年生はHigh Schoolという形になり、各学校が新制度に従って慣れて行かねばならず、大変そうでした。

7日にタンセンに行く前に3校を訪問予定でしたが、インド国境でマデシとの紛争が起き、死者も出たとの情報が入り、街道沿いの3校訪問は危険なので、予定を変更して急遽、裏道を通って直接タンセンに向かいました。

ガタガタの悪路で疲れましたが、三年ぶりのタンセンは懐しかったです。山の上のシリナガルホテルは、部屋がきれいになっていて、皆で「良かったあ！」と喜びました。

夕方、いつものナグロレストランでタンセンの先生方との懇談会を持ちました。ルンビニの先生方とは違い、理事長は元気か？和田さんのお母さんはどうされてる？などの質問がでたり、和やかに歓談しました。タンセンでは三校程訪問しました。

コンピューターの勉強に力を入れている学校が増えて、パソコンやその専門書が欲しいなどの要望がありました。まだまだ、図書支援を必要としている学校があることが分かりました。ミレニアム校などは、幼児教育を始めていて驚きました。まだまだ裕福な家の子供達ばかりのようでしたが、、、。

8日にカトマンズに戻り、次の日、パドマカニヤ女子校を訪問しました。今、校舎の裏に寮を作っていて、女性の校長先生から、「一年後には100人入れるようになります。でも中味はまだまだこれからですので、是非協力を願いたい。」と要請されました。ルンビニ、タンセン、カトマンズとこのような要望に対して、ミカの会が今後どのように対応して行くのかを、帰国してから良くよく検討しなければ、、、と思いました。

「教育支援の旅に参加して」

吉田 久子

今回は3回目の支援の旅でしたが、お釈迦様の生誕地・ネパールのルンビニ地区を訪問出来る事が、私にとって一番の楽しみでした。巡礼者が多くて建物の中には入れませんでした。敷地内を廻り、菩提樹の下に立った時はとても気持ちが落ち着き、平穏を感じました。線香を立てて旅の無事を祈りました。

手から手へ20周年記念のノートや鉛筆等を手渡したとき、子供たちのひと際澄んだ瞳が私の心に残りました。この地区はまだ2割の子供たちが通学していないとの事は考えさせられました。

ルンビニでは笠井ホテルに3泊出来ましたので、食事や入浴等疲れがとれたようです。お土産に菩提樹の葉のしおりを記念に頂きました。

山間の高地に位置するタンセンへは少し移動が大変でした。夜の懇親会には顔見知りの先生方が出席され和やかなひと時を過ごしました。タンセンの子供たちは通学に多くの時間を要しているとの事です。

カトマンズでは女子校を訪問、プレゼントされたジャンパーを着用した子供たちの誇らしげな顔が印象的でした。

今回は事情により訪問出来なかった学校もあり、残念でしたが、ネパールでの支援の旅は無事に終わりました。20周年と言う中で、見えて来た事は学習内容が、世界状況によりパソコンなどに移りつつ有ると感じました。何よりもルンビニ地区での子供たちが一人でも多く通学出来る環境が整備される事を願わずにはられません。

最終日、私達はラマさんの案内で地震で崩壊された世界遺産の王宮広場に行きました。高い部分は特に崩れていましたが、低い部分は思ったより、しっかりとしていました。流石に彫刻部分は立派に残っていて感銘しました。復興までには相当な年月が必要ではないかと思います。

第19次教育支援の旅では、ネパールに入る前にタイに入国、バンコック、そして「神秘的国」ブータンを観光しました。バンコクの市内では車窓から路上生活者らしい人々を目にして、貧富の差を感じました。

ブータンは人口70万人と言う事もあり、観光収入等で、医療と教育は無料で、貧富の差は感じられず、ゆったりとした時間が流れているようでした。

建物が規格化されており、街並が美しく、回りに調和していました。世界中の仏教徒からの寄付金等で大きな仏像が建立中でした。完成には相当な期間が必要だとの事でした。山中に張られた5色の旗が美しく「ルンダル」風の旗と呼ばれているそうです。赤は火、白は水、黄は土、青は空、そして緑は自然との事です。溪谷に沿って標高2400mの位置から街が造られています。貴重な支援の旅に参加出来た事を、同行の皆様へ心から御礼申し上げます。



第19次ネパール教育支援の旅 2017.03.01 ~ 03.11

最初の訪問国 タイ・Thailand



ブータン王国・Kingdam of Bhutan 2017.03.02 ~ 03.04



ネパール・ルンビニ Nepal Lumbini 2017.03.04 ~ 03.07





ネパール・タンセン Nepal・Tansen 2017.03.7 ~ 03.08



「初心に帰ろう！」

和田 泰子

今回はタイ、ブータンに立ち寄った後、ネパールに6泊というちょっと欲張った旅だったこともあり、帰国してからの疲労感は今までにないものだった。活動を始めた20年前に比べれば仕方のないこととは思いますが、自分の体力の低下に気づかされた旅だった。

タイのバンコクはネパールへの通過地点として何度も降り立ったが、ほとんど観光したことはなかった。今回訪れた水上マーケットは独特の異国情緒があって、運河が道であり、果物・料理・日用品等々積んだ船がお店でそれに観光客、と雑多な種類の船がひしめき合い、活気があって面白かった。

初めてのブータンは緑も豊かで、同じ作りの家々が落ち着いた佇まいを見せていた。伝統的な建築や衣装がここまで守られているにはそれなりの厳しい規律があるようで、自由のない国だという人もいるが、国民が敬愛する庶民的な国王のもとで医療費、授業料無料、老後の心配もなく、「一生幸せ」と感じて生きていけたらそれもいいのではと思ってしまう。

ネパールではいつものようにルンビニ、タンセン、カトマンズを回った。地震については被害の大きかった地域は行ってないので、どれ程復興が進んでいるのかは分からなかったが、世界遺産の寺院や建造物は、当時の建築様式を遵守するためか、まだ手付かずのようだった。人々の生活は元に戻っているように見えたが、昨年訪ねたテント生活の場はまだ変わっていないのかもしれない。

ミカの会の活動に関しては、20年経ち、会の現状そして自分たち会員の体力考えると、これからどんな支援ができるのだろうと悩んでいたが、今回の旅で先生方との交流を通して、現地の方々もこちらの事情を理解していること、そして小さな支援でもまだ必要とされていることが分かった。また教育制度が変わって10+2の制度はなくなり、教育環境が整えば12年生(ハイスクール)までの学校になれる可能性がでてきた。

ネパールも徐々に変わっているが、自分の気持ちも変化し、初めの頃のように心が動かなくなってきている。何でもなかったことが心に引っかかる。

ノートや飴玉を手渡しして回るとき、飴玉一つを両手で押し戴くように受け取る子どもたち。本当にうれしそうな笑顔を見せてくれるが、自分に上から目線の意識はないにしても、私は何をしているのだろうと気持ちが重くなっていく。初めて訪ねた頃のルンビニは先生方に託しても、ちゃんと子どもたちに手渡されるか心配であったし、子どもたちもワッと寄ってきて誰に渡したか分からないような状況があったが、今はどこもきちんとしている。これはもう学校に託して、その時間で子どもたちと一緒に遊びたい。

今回加藤誠一さんのご厚意で各学校に英語解説付き折り紙の本と折り紙をお届けしたが、次回は折り紙で子どもたちと交流できたらと思う。小さなことにもワクワクドキドキした初心に帰ろうよと自分に言い聞かせている。



私とミカの会との出会いは18年程前でしょうか。カトマンズ日本語学院で副校長をしていた時、皆様に足を運んで頂き、色々とお話をすることができました。その後、日本の子どもの本をネパール語で翻訳をさせていただきました。それが、ミカの会との出会いでした。

その後、ミカの会の会員でいる妻と出会い、2001年の12月に来日しました。2002年から齋藤理事長のしぜんの国保育園で働かせていただきました。2002年3月31日に日本で結婚式を挙げ、私たちの初めての子、長女の名前もミカ（弥花）とつけました。

ミカの会のボランティア活動に数回参加させて頂き、2003年夢広場でスリランカの方と一緒に事務局長もやらせていただきました。その後もチャリティーボウリング大会、在日ネパール大使を招いてするお花見やお茶会、ボランティア祭りなどに参加しております。

2007年には旅行会社に勤め始め、ミカの会のネパール教育支援の旅の航空券手配、ビザ、宿泊手配などをさせて頂いていました。2012年から初めて皆様の旅に添乗員として同行させて頂くことになりました。2012年の春は、インドの仏遺跡を巡り、ルンビニに入って皆様が支援されている学校を自分の目で見る事ができました。2015年4月にネパールで発生した大震災後は、皆様からの支援金を被災地まで届ける為にネパール・日本の窓口とさせて頂き、6月にミカの会からの支援物資を届けるに現地ボランティアスタッフと共に被災地に行きました。

2016年の春は、世界遺産や遺跡、豊かな自然がたくさんあるスリランカ経由のネパールと今年の春は、「世界一幸福な国」「現代最後の秘境」といった名で日本でも知られているヒマラヤ王国ブータン経由のネパール支援の旅をご案内させて頂きました。

現在はカトマンズから車で4時間程かかるバルワ村に植草さんの支援により、娘トモコさんの冥福を祈ったトモコ学校を建設中です。そこの2階にはミカの会図書室もあります。皆様の努力で20年も続いているミカの会・ネパール教育支援と支援の旅がありますが、なんでも楽しくないと続かないと思います。今後みんなで楽しく末永く続いてほしいと思います。

今後もミカの会の皆様と一緒に楽しい旅にも出たいし積極的にボランティア活動も続けたいと思います。



齋藤理事長・植草夫妻が参列し、トモコ学校の贈呈式が行われました。2階部分が当会の募金で完成した図書室です。

仕事が一段落して気持ちはビスタリモードに切り替えました。出発前からタイ・ブータンに行く事もとても楽しみな支援の旅でした。

色々な想いを胸にタイ航空に乗り込みました。飛行機など乗り物大好き人間なのであつという間にバンコクへ。30年ほど前に観光した水上マーケットやワットポー寺院も随分変わりました。わがまま言ってFB仲間のタイのパイロット夫妻と夕食をする事も出来ました。

翌日早朝からパロ国際空港へ、初めての訪問する国はいつでも好奇心全開。ゾンを始め、見るもの全てが新鮮に見える。

統一された建物や民族衣装など異論はあろうかと思いますが、観光客にとっては嬉しい事ですし、国王への信頼、尊敬の証しのようにも感じます。短い滞在でしたが、なによりガイドのキンレーさん始め優しく温和な人々がとても印象的でした。パロ国際空港のスリリングな離発着も気に入りました。

さあ、トリブヴァン国際空港から国内線でパイラワに。夕陽と追いかけてしながらルンビニ・笠井ホテルに到着です。

3泊してルンビニの学校訪問です。熱いシャワーと清潔なトイレ、なにより美味しい和食に癒されながらの活動です。タンセンのシリナガルホテルも改修され、より滞在しやすくなりました。

制服支援や校舎の改修、ノートのプレゼントと形になって見えると感激も大きいものです。ルンビニでは支援校の卒業生が先生や役所、ホテルなどで活躍しています。タンセンでも同じです。昨年行った留学生との懇談会に出席の男性はタンセンのJVTの卒業生で、現校長の授業を受けたそうです。

そんな20年継続したからこそ実現する素晴らしい結果が見えて来ました。細々でも継続して行く事が私達の会に求められています。

年輩者が多くなった我が会の旅には滞在・移動環境に配慮も必要です。残念ながら気力では補えなくなりました。これからの支援の旅もゆっくり出来る事が必要だと思います。

2日間、ネパールでの滞在を延ばして単独行動。一緒に地震の支援活動をした仲間と会いたかった事、カメラ片手にのんびり、気ままに散策したかった事。

ネパールのボランティア仲間、日本に来た時に富士山を案内した今はネパールを代表するプロカメラマン、ネパールで活躍する日本人女性など多くの人と再会する事が出来ました。

モティさんのバイクの後ろに乗せてもらい、ボダナート周辺を案内してもらった事、ラマさんとパタン散策。ナガルコットのヒマラヤの雄大な姿に感動した事など忘れる事の出来ない旅となりました。

最後に、旅の期間中同行の会員の皆様に、わがまま言ってご迷惑をかけた事をお詫びいたします。素晴らしい仲間感謝します。

【編集後記】

第19次ネパール教育支援の旅特集号となりました。平成28年度内の事業・活動状況は、旅の詳しい報告書と共にHP上で公開されています。

ネット社会が進歩し、どこにいても連絡がとれ、文章・写真や動画を送る事が出来るようになりました。ネパールとの情報交換も郵送からファックスそしてメール。そして今、主流はスマートフォン（携帯電話も含む）となりました。

現在、会員の皆様へのお知らせや情報は会報・HP上の掲示板、ハガキなどに限定されています。スマートフォン・PCへの一斉送信がスピード、コストの面でも優れているのは行政の取り組みでも明らかです。個人情報との擦り合わせもありますが以上のような観点から会員の皆様の同意の上システム化して行きたいと考えています。ご意見ありましたらお願い致します。

seiichi kato